

倉小だより	令和7年2月28日発行
	たなばた学園
	交野市立倉治小学校 校長 恒松 小百合
学校教育目標:自分と自分の周りの人を大事にし、ともに学び合う、心豊かな子どもの育成 めざす子ども像:ともに高めあえる子 ♪元気いっぱい のぞみいっぱい 笑顔いっぱい	



旅立ちの春～たくさんの思い出を胸に～

3月になると、いよいよ今の学年も終わりに近づき、なんとなく寂しさも感じます。春の訪れとともに、子どもたちは、次の学年へ新たな一步を踏み出す心の準備をし始めています。教室へ行くと、「校長先生、次の担任の先生は誰って決めたの?」「〇〇ちゃんと同じクラスにして～!」など、子どもたちに声をかけられるようになりました。クラス替えも、先生がかわることも、友だちが増えることも、きっとドキドキわくわくすることでしょう。そのことを楽しみにする気持ちと、今の当たり前前の日常が残り少ない寂しさを感じながら、3月を大切に過ごしていきたいですね。

先日の集会では、児童会の役員さんたちが最後の挨拶をしてくれました。全校児童の前で舞台に立ち、堂々と自分の言葉でお話をする姿に、いつも感心しています。1年間、倉治小学校をより良い学校にするために、様々な月目標を考え、とり組んでくれました。「あいさつで心をつなごう」「みんなで楽しく安全な学校にしよう」など、子どもたちの意見を大切にしながら、一つひとつの目標に向かってお手本となって行動する姿は、とても頼もしく感じられました。児童会のとり組みのおかげで、あいさつが当たり前前にできる学校の雰囲気が出ています。私自身、子どもたちからたくさんの「おはようございます!」をもらって、とても元気が出ます。そして、それは学校の中だけではなく、地域に出た際でも、子どもたちの方から気持ちの良いあいさつをしてくれると、民生委員のみなさんが、学校訪問の時に教えてくださいました。地域のみなさんにも、自分から大きな声であいさつをする倉治小学校の子どもたちは、本当に素晴らしいと思います。あいさつは、心と心をつなぐとても大切なものだということを、わかっているのでしょうね。とても嬉しく思っています。

6年生は、卒業を目前に控え、悔いのないように思い出づくりをしているようです。「卒業前に屋上に上りたい」「ラジオに出演したい」など、いろいろとお話に来てくれています。自分たちで考えて、学校を自分たちで楽しむことができるのは、とても素敵なことです。

下の学年の面倒をよく見てくれて、優しい6年生の姿は、倉治小学校のみんなの心に憧れの存在として残り、次は5年生がその後を引き継ぎ、最高学年として頑張ってくれることでしょう。残りの日々を、1日1日と大切にしながら、中学生になる準備をしてください。ずっと応援しています。

保護者のみなさま、地域のみなさまのおかげで、今年度も無事に子どもたちの成長を見守ることができました。本当にありがとうございました。新年度も、子どもたちが安心して学び、成長していけるよう、職員一同力を合わせてまいります。今後とも、ご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



	<u>＊3月12日から時数調整の関係で</u> <u>修了式まで全学年4時間授業になります。</u> <u>13:15ごろの下校</u>
	＊来年度4月に参観をせず、家庭訪問を行います。 日程調整の期間確保のため、21日に希望日時調査を配布いたします。新年度に新しい担任に渡してください。よろしくお願いします。 ＊令和7年度 入学式 4月4日(金) 始業式 4月8日(火) 離任式 4月9日(水)

2025KMF (Katano Music Festival)・冬祭に参加しました! 2月22日(土)に、4年生・5年生の希望者のみなさんが、星の里いわふねにおいて開催された冬祭に参加し和太鼓の演奏を披露しました。 4年生は「倉小ばやし」5年生は「屋台ばやし」という演目で、どちらの発表も、堂々としており、力強く練習の成果を発揮しました。代表者に、インタビューがあったのですが、「緊張したけど、楽しかった!」と笑顔で応える姿が印象的でした。 冬祭は希望者のみの参加でしたが、4年生と5年生は、学年全体で、1学期から和太鼓の指導を受けており、2月25日(火)の参観授業では学年のとりくみとして、和太鼓の発表もありました。 1年生から3年生も、2月17日(月)に、それぞれの学年で日頃の学習の成果を発表しました。6年生は、21日(金)お別れ会を兼ねて卒業に向けての思いを保護者のみなさんに伝えました。 全ての子どもたちの成長した姿をご覧いただけたのではないのでしょうか。

教頭のつぶやきコラム 卒業生に向けて、メッセージを送る機会を校長先生からいただいたので、お祝いの気持ちを込めて短い文章を送りたいと思います。
2024年11月13日、詩人の谷川俊太郎さんが天に召されました。谷川さんの詩に「生きる」というものがあります。この詩は、生きることは大きく3つあると述べています。第一に、すべての美しいものに出会うこと。第二に、自由ということ。第三に、愛すること。の3つです。この3つが、「いのちということ」とつながっていることを表現した詩なのです。 実は、私が、この詩の中で一番大事だと思う部分は、他にあります。それは、「すべての美しいものに出会うということ」の後にあります。 「そして、かくされた悪を注意深くこぼむこと」という部分です。谷川さんは、美しいものに出会うだけでは、いけないと言っています。悪をこぼむことは、子どもであってもそんなに難しいことではありません。しかし、かくされた悪をこぼむことは、難しいことなのだと私は大人になってから気づきました。しかも、注意深くしていないとそれが悪であると気づくことができないことがたくさんあるのです。私は、本当に生きているのかを、たまに自問自答しています。かくされた悪をこぼむことは、生きていることなのだと教えてくれた谷川俊太郎さんに感謝しています。もちろん、その他の三つも人生の大切な要素です。
この詩の意味を知ることができるような人生を、卒業生のみなさんが送ることを心から祈っています。 倉治小学校 教頭 野地岡 裕之